つながり つづくよ 人の輪 地域の和

宮古島市

来間島内で使用するすべての電力を再生可能エネルギーで。国内外の注目を集める試みが、始まっています。

電力の地産地消

離島におけるエネルギー安定化に向けた新たな挑戦

水資源や自然環境の保全活動を推進する島として平成二十年にエコアイランド宣言をした宮古島市。太陽光発電や風力発電、バイオマス燃料など、国や県、企業の再生可能エネルギー活用の研究事業も積極的に受け入れてきました。

平成二十三年からスタートした「宮古島市来間島再生可能エネルギー百パーセント自活実証事業」は、来間島内の消費電力における再生可能エネルギーの電力比率を百パーセントとした、電力エネルギーの完全な地産地消の実現を検証する事業です。メガソーラーとよばれる大規模な実証事業は全国各地で展開されていますが、八十八世帯と小規模な島において、各家庭や公共施設などに導入される再生可能エネルギーなどを活用しての取り組みは、新たな試みとして熱い視線を集めています。

「今回の事業は、沖縄とハワイのクリーンエネルギー協定でのノウハウの共有にもつながる事業。世界も注目しています」と宮古島市企画政策部エコアイランド推進課の嵩里公敏さんの言葉にも力が入ります。

国内外の注目を集める島しょ型実証事業！

来間大橋。この橋ができて、島の人口は少しずつ増加

一歩一歩

島民の参加へ 向けて地道な積み重ね。百聞は一見に如かず

県のスマートエネルギーアイランド基盤構築事業の一環である同実証事業では、平成二十三年十月に初の住民説明会を開催。十二月からは、来間小中学校や住民の集会場である離島センターなど、公共施設への太陽光パネル設置工事がスタート。平成二十四年度は、前年に引き続いての事業説明会や、太陽光パネルを設置する住宅屋根を一軒一軒点検しながら、同島全体での実証事業を本格化させていく予定です。

メリットを知ってもらうことからなのね。

来間島は高齢者が多く、同事業への関心の高まりはスローペース。そこで、個人で太陽光発電パネルを設置した自治会長の来間得良さんは、自宅へ見学に来る人や、さまざまな会合で同席となる住民の皆さんへ、太陽光発電のメリットを説明しています。

「今後は、多くの住民、ミニデイサービスなどで高齢者も集まる離島センターで事業メリットを伝えていきます。発電モニターを見れば理解しやすいし、太陽光の説明パネルの設置も予定しています」と同事業認知へ向けての取り組みに声を弾ませます。

実証事業が拓く地域の可能性を熱く語るエコアイランド推進課の嵩里さん(左)と富浜さん

地域動力へ

環境保全、雇用創出、人口増加、島を動かすエネルギーへ

電力需要のピーク時や台風など、非常時用の電力確保につながる蓄電池などの最適容量の検証も含め、来間島での実証事業は、地産地消の電力エネルギーの在り方、CO_2排出の大幅削減、同事業の視察を含めた同島PRなど、島の活性化にもつながっていく事業です。

再生可能エネルギーって、すごいね！

実証実験の実施メリットを自らの体験を通して島民へ説明している、行政と住民の架け橋、来間さん

「来間島の次は、宮古島全体へ、沖縄本島へ、日本へ、そして、似たような島がたくさんある南太平洋や東南アジアへ、同じような取り組みが広がるといいなと思っています」と語るのは、宮古島市の企画政策部エコアイランド推進課の富浜靖雄さん。「この電力の地産地消を実証事業終了後も継続できるように、利益がでる仕組みづくりを。そして、産業や雇用創出にもつなげていけたら」と同市の未来展望を語るのは同課の嵩里さん。

宮古島市来間島再生可能エネルギー100%自活実証事業

来間島の住民	行政	事業者
・実証事業への参加 ・エコへの取り組み強化 ・エコで島おこし ・事業立ち上げ	・計画策定、住民説明会などを行う事業実施事務局 ・住民と事業者のコーディネート ・住民への情報提供 ・環境教育の推進、視察ツアーなどの企画実施	・太陽光パネルの設置や検証などの具体的な事業内容の推進 ・計画策定、住民説明会などを行う事業実施事務局

地理的なデメリットが、いち早く最先端の再生可能エネルギーの実証事業へ乗り出すことに。宮古島市来間島の循環型社会構築へ向けた道のりは、まっすぐ進んでいけるように、明るく照らされています。

来間島の挑戦は、アジア島しょ地域における再生可能エネルギー利用のヒントにもなるのね！

来間会長の自宅に備え付けられた太陽光パネル

島で唯一の展望台から見える集落の風景

編集後記

ここ最近曇りや雨の日が続いて、沖縄地方の日照時間は平年に比べてかなり少ないそうです。天気が悪いと気分も沈みがちですが、もっと問題なのが運動不足。外でランニングするのも天気を理由にサボってしまうため、正月太りが全く解消されません。晴れたらね‥。とついつい先延ばしにしてしまいます。(kai)

沖縄から世界へ!!これまで自由企画のページでは、沖縄から世界に飛び出した、ヒト・モノ・企業を紹介してきました。今月号は「株式会社ぬちまーす」を紹介しております。国内外の数々の賞を受賞し、最近では台湾の大手飲料メーカーから、スポーツ飲料の原料として「ぬちまーす」を輸入するなど、世界から注目を集めていますので、是非ご覧になってください。(tama)

平成24年2月1日発行 第36巻2号通巻437号
沖縄県広報誌 美ら島沖縄
企画・編集・発行　沖縄県知事公室広報課
〒900-8570　那覇市泉崎1-2-2　TEL.098-866-2020

アンケート
「美ら島沖縄」の感想をお聞かせください。
▶パソコンはこちら　美ら島沖縄　検索
▶携帯電話は、右のQRコードから

Okinawa International Asia Music Festival 2012 music.okinawa.com
沖縄国際アジア音楽祭
2012年3月16日～18日開催!